



未来の夕陽を担う若人たち

# 夕陽

函館市支部会報

発行所  
夕陽会 函館市支部  
函館市立戸倉中学校  
印刷/株島本印刷



## なごり雪の頃に

夕陽会函館支部 副支部長 三島 千春  
(昭和五十四年卒)

「汽車を待つ君の横で僕は時計を気にしている」…今年もまた知らず知らずのうちにこの歌を口ずさんでいる季節を迎えた。一九七五年、イルカが歌いヒットした「なごり雪」。この「なごり雪」のように、雪を表す日本語を思い浮かべてみる。細雪、粉雪、淡雪、沫雪、大雪受験誌の「蜚雪時代」、中島美嘉の「雪の華」まで、枚挙にいとまがない。

このように、四季折々に自然を繊細に表現している「美しい日本語は、私たち日本人共有の宝だ」と思う。日本人の「美しい心」から生まれた「美しい日本語」をより身近に、より大切に交わす、そんな人間でありたいと思う。

今年一月一日付け朝刊全国紙に「日本人よ、勇気をもちましょう」というタイトルで新潮社の広告が掲載された。アメリカ・コロンビア大学のドナルド・キーン名誉教授の一文であった。戦後、東京が奇跡的に復興を遂げたように、震災を受けた東北にも同じ奇跡が起こるのではと氏は寄せている。「なぜなら、日本人は強いからです」と。興味深く思ったのは、氏が「つよい」という言葉に対して、「強い」ではなく「強い」という文字を使っていることだ。単なる強弱の「強」ではなく、災難を克服し立ち上がったという心とすがる心の「つよさ」を、ぴんと張りつめていながらも、しな

やかに弾むような弓の「つよさ」を表す「勁(けい)」という文字で表したかったのだろうか。

「勁健(けいけん)なるみなさん、物事を再開する勇気を持ち、自分や社会のありかたを良い方向に変えることを恐れず、勁く歩みを運び続けようではありませんか。」と氏は結んだ。辛い記憶の残る年を乗り越えていこうとする日本人への新年の温かいメッセージだった。

「夕日がきれいに見えるのは、三人で見ているからだよ。」…映画「ALWAYS Y.S.続・三丁目の夕日」二作目ラストシーンのセリフである。主人公の作家と縁あって一緒に暮らすことになった少年のうれしさが表れていた。そして、今年一月公開の三作目では、その少年が青年となり巣立ちを遂げた。ラストシーンでは、誕生したばかりの我が子を抱いた作家が、「大人になっても、このままきれいな夕日だといひね。」と。夕日につつまれ、守られている家族の幸せを祈る姿が描かれていた。どんなに時代が変わろうと、変わらない大切なものがきつとある。

もうじき駅のホームで、空港のロビーで別れを惜しむ光景を目にすることだろう。いつのまにか卒業生の旅立ちに熱いエールを送っている自分がある。  
夕陽(せきよう)とこしえに…。

◎ 訃 報

ご冥福をお祈りいたします

- ・三上 隆氏 (昭28年卒) 平22年10月ご逝去
- ・小川 滋氏 (昭31年卒) 12月ご逝去
- ・大谷 治義氏 (昭33年卒) 平23年3月ご逝去
- ・金崎 紘一氏 (昭42年卒) 3月ご逝去
- ・青木 敏夫氏 (昭6年卒) 4月ご逝去
- ・新谷 健治氏 (昭23年卒) 5月ご逝去
- ・佐藤 武良氏 (昭28年卒) 5月ご逝去
- ・三ツ谷重次氏 (昭33年卒) 6月ご逝去
- ・黒丸宗太郎氏 (昭14年卒) 6月ご逝去
- ・田村 憲雄氏 (昭31年卒) 7月ご逝去
- ・高岡 松蔵氏 (昭22年卒) 7月ご逝去
- ・佐々木謙蔵氏 (平7年現) 8月ご逝去
- ・武藤 佳明氏 (昭52年現) 8月ご逝去
- ・古谷 宏氏 (昭24年卒) 9月ご逝去
- ・浅井 庸子氏 (昭48年卒) 9月ご逝去
- ・細田 辰男氏 (昭11年卒) 10月ご逝去
- ・亀谷 幸夫氏 (昭46年卒) 12月ご逝去
- ・清野 唯夫氏 (昭23年卒) 12月ご逝去
- ・岩田朝日幸氏 (昭30年卒) 12月ご逝去
- ・木村 武広氏 (昭20年卒) 平24年1月ご逝去
- ・三田 篤子氏 (昭28年卒) 1月ご逝去
- ・田中 俊也氏 (昭29年卒) 2月ご逝去

函館市支部前納会員(順不同)

平成二十三年度

- ・藤川 隆氏 (昭48年卒)
- ・鳴海 順二氏 (昭48年卒)
- ・秋元 順一氏 (昭49年卒)
- ・黒崎 勇司氏 (昭49年卒)
- ・小橋 誠太郎氏 (昭49年卒)
- ・玉手 道男氏 (昭49年卒)
- ・柏崎 恭子氏 (昭48年卒)
- ・吉田 育子氏 (昭52年卒)



- 平成23年
- 4月
    - ・新年度会員名簿作成
    - 7日(木) 事務局会議
    - 9日(土) 支部総会
    - 13日(水) 函館市支部幹事会および新会員、転入会員・幹事懇親会案内
  - 5月
    - 15日(金) 本部総会・懇親会札幌大会2次案内発送
    - ・函館市支部管理職名簿作成
    - ・支部会報発行計画
    - 12日(木) 函館市支部幹事会および新会員、転入会員・幹事懇親会(ホテル法華クラブ)
  - 6月
    - 30日(月) 東日本大震災に伴う義援金の依頼文書配布
    - ・会費徴収
    - ・本部総会・懇親会札幌大会推進業務(本部との打合せしおり作成等)
    - ・事務局会議
    - 3日(金) 第4回本部役員会 顧問・参与会に支部長・幹事長出席
    - 8日(水) 東日本大震災に伴う義援金集約 本部に送金
    - 9日(木) 東日本大震災に伴う義援金のお礼文書発送
    - 18日(土) 夕陽会全国支部長会議に支部長・幹事長参加
    - ・夕陽会総会に支部長・幹事長参加
    - ・本部総会・懇親会札幌大会(札幌パークホテル)
    - ・事務局会議
  - 7月
- 平成24年
- 1月
    - 20日(金) 顧問会議案内状発送
    - 24日(火) 第5回夕陽会本部役員会に支部長出席
    - 30日(月) 支部役員会議
    - 2月
      - 7日(火) 支部顧問会議
      - 11日(土) 夕陽会渡島支部勇退者激励感謝の会に支部長出席
      - 17日(金) 支部受賞祝賀会・会員懇親会
    - 3月
      - 5日(月) 24年度会員名簿作成依頼
      - 支部会報81号発行
      - ・栄進者への祝意
      - 支部役員会、会計監査
      - 事務局会議
      - 本部会報206号移送
  - 8月
    - 25日(月) 本部会報204号移送
    - 20日(土) 鶴陵会渡島支部懇親会に支部長参加
    - 30日(火) 管理職採用・昇任者に寄付依頼
    - 9日(金) 夕陽会第1回本部役員会に支部長参加
    - 30日(金) 支部会報80号発行
    - 支部会報発行計画
    - 事務局会議
  - 9月
    - 9日(金) 夕陽会第1回本部役員会に支部長参加
    - 事務局長会議
    - 事務局会議
  - 10月
    - 30日(金) 支部会報80号発行
    - 支部会報発行計画
    - 事務局会議
  - 11月
    - 祝賀会・会員懇親会運営計画
    - 祝賀会・会員懇親会運営計画
  - 12月
    - 5日(月) 本部会報205号移送
    - 15日(木) 祝賀会・会員懇親会案内状発送
    - (受賞者、来賓、五稜支会、特別支援学校支会、会員)
    - 事務局会議
    - 顧問会議案内状発送
    - 第5回夕陽会本部役員会に支部長出席
    - 支部役員会議
    - 事務局会議

【平成二十四年度 予告】

◆ 函館市支部総会

日時 四月十四日(土) 午前十時

- ・会場 市民会館大会議室
- ① 学校幹事は必ず出席してください。(都合の悪い場合は代理出席も可)
- ② 学校幹事の他に以下の会員数の出席を加えて報告してください。
- ◇ 会員数九名以下の学校は、幹事その他に一名以上
- ◇ 会員数十名以上の学校は、幹事その他に二名以上

◆ 夕陽会本部総会・大懇親会

- ・期 日 六月十六日(土)
- ・会場 函館国際ホテル
- ・本部総会 午後四時〇〇分
- ・大懇親会 午後五時三十分

事務局だより

支部会報第八十一号をお届けいたします。本会報の発行に際し、ご多忙な時期にもかかわらず、快く原稿をお寄せいただき誠にありがとうございます。紙面をお借りして、心より感謝申し上げます。

前納会員制度のご案内を、三月でご退職される会員の皆様差し上げております。便利なこの制度のご利用をお勧めいたします。

(夕陽会函館市支部幹事長 佐々木 理之)

平成23年度

夕陽会函館市支部受賞祝賀会ならびに会員懇親会  
平成24年2月17日(金) 於ロワジュールホテル函館



お一人お一人に記念品の贈呈



満員の受賞祝賀会会場



力強いエール 戸倉中応援団



ご祝辞 副市長 中 林 重 雄 様



ご祝辞 指導監 大 堂 謙 様



受賞者代表 高 市 一 男 様



挨拶 青 木 昌 史 支部長



祝杯 教育長 山 本 真 也 様



乾杯 夕陽会会長 橋 田 恭 一 様



同窓の絆を深めて 小林周次先生の先導で察歌を熱唱される皆様



平成二十三年度を  
振り返って

夕陽会幹事長 奥崎敏之  
(昭和六十年卒)

函館市で行われる六月の夕陽会総会と大懇親会は、函館近郊に住む同窓生にとって、毎年恒例の大きなイベントですが、今年度は十年に一度の札幌大会となり、多くの皆さんのお力添えを持って、去る六月十八日に札幌パークホテルに於いて無事挙行することができました。この場をお借りして関係各位に御礼を申し上げます。

また、この準備と並行して、三月十一日に起きた東日本大震災に伴い、被害に遭われた多くの同窓会員を支援すべく、各支部・前納会員に向け義援金の募集をお願いいたしました。函館市支部からも同窓生の安否を気遣い、復興を支援するたくさんの義援金をお寄せ頂きましたことに、改めて感謝申し上げます。

個人的には四月に人事異動となり、新しい職場でのスタートが重なりました。人間関係も、仕事の面も全てが再構築、八月には全国の附属学校の校園長研究会を控えるその事務局業務も錯綜する中で、今振り返ってみて、どうやってこれらの業務を終えたのか思い出せない部分も多々あるのですが、とにかく矢のように過ぎる毎日でした。会の要の仕事を引き受けることが臍氣ながら明らかになってきたときに、函館市支部のある元支部長から「大変な仕事だからな。だけど、今の仕事と落差が大きいほど伸びるからな。」そう言われて励まされていたことを思い出します。

また、札幌大会がなんとか滞りなく実施できそうだという見通しが持て、少しほっとしたのが六月十一日だったのですが、その日の午前中に、件の元支部長から「だいたいの仕事がちがって来たようだね。」という電話を頂いた時、激務の中戦っていることを陰から気にかけてくださっていた御厚情に吃驚いたしました。

宮城県への義援金のお届けを巡ってその切り口が見つけられず大きな壁にぶつかっていたときにも、県在住の校長職の同窓を道立図書館に行って手作業で調べ、「ここを渡れ」と示唆する資料を送って下さった札幌の青柳副会長の仕事や、陪席して伺う橋田会長と青木支部長とのやりとりなど、仕事の切れ味はよくカミソリに例えられませんが、こうした先輩の仕事を見ると、二つ次元の違う切り拓く強い力を持った斧のように見えることがあります。

十月には函館市の新学部構想が示され、同窓会としても、その行く末を巡って現在も様々な対応が続いております。函館市支部をはじめとし、全道・全国各地に在る同窓生の思いを少しでも多く受け止め、今後に反映していけるよう努力して参りたいと思っております。

常に自らの能力や資質の身の丈を思い知らされる場面の連続ですが、先輩・函館市支部各位の心の支えに深謝した一年でした。

受賞者ご芳名一覧 (敬称略・順不同)

- |                |       |               |
|----------------|-------|---------------|
| 秋の叙勲           | 瑞宝双光章 | 清野弘子 (昭和39年卒) |
| 法務大臣表          | 彰     | 古谷道子 (昭和31年卒) |
| 函館市スポーツ賞       |       | 福田肇 (昭和34年卒)  |
| 函館市体育協会功労章     |       | 加藤弘 (昭和32年卒)  |
| 函館市文化団体協議会白鳳章  |       | 信田誠 (昭和35年卒)  |
| 函館市文化団体協議会白鳳章  |       | 安保勝順 (昭和44年卒) |
| 函館市文化団体協議会青麒麟章 |       | 磯波理恵 (平成14年卒) |
| 函館音楽協会賞        |       | 高市一男 (昭和24年卒) |

函館市立学校教職員表彰

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 安濃万知子 (昭和48年卒) | 藤川隆 (昭和48年卒)   |
| 伊藤忠司 (昭和48年卒)  | 増野芳幸 (昭和48年卒)  |
| 柏崎恭子 (昭和48年卒)  | 秋元順一 (昭和49年卒)  |
| 加藤俊一 (昭和48年卒)  | 黒崎勇司 (昭和49年卒)  |
| 玉手道男 (昭和48年卒)  | 小橋誠太郎 (昭和49年卒) |
| 中林秀子 (昭和48年卒)  | 田野中敏 (昭和49年卒)  |
| 鳴海順二 (昭和48年卒)  | 福良裕貴 (昭和49年卒)  |
| 仁木正枝 (昭和48年卒)  | 若原孝行 (昭和50年卒)  |

受賞おめでとうございます

よろこびの言葉



子どもたちの  
幸せを願って

清野弘子  
(昭和三十九年卒)

このたびは思いもかけず秋の叙勲の栄誉をいただきまして、これもひとえに皆様方の温かいご指導、ご支援の賜と深く感謝申し上げます。

昨年十一月九日、晴天の朝、最高裁判所に赴きまして長官より勲章、勲記の伝達を賜りました。引続いて、午後からは皇居に参内し、「春秋の間」に於いて爽やかな皇太子殿下の拝謁を賜りました。美しい皇居内やお庭の案内をいただきながら、テレビで映る陛下のお姿を重ね、一日も早いご回復をお祈りいたしました。私は、昭和五十八年四月、函館家庭裁判所の家事調停委員を拝命し、その後は函館地方裁判所の民事調停委員や司法委員等を勤めて二十九年を経ております。裁判所には、家庭の諸問題、金銭トラブル等、時代の様相を反映して千差万別の紛争が持ち込まれてまいります。人の考えも様々、その思いの深さにたじろぐこともございました。

大学では家庭科教師をめざし、家政学をはじめ、教育心理学等を勉強いたしました。仕事の上で大いに役立っておりますし、特に家族関係では子の福祉を優先に考えて、親権や面会交流等の問題の研修を重ねております。

教職には苫小牧東中学校に五年五か月勤務し、函館に戻ってからは非常勤講師として二十五年間、小・中・高・短大とあらゆる年齢層の生徒達と共に楽しく学びました。顧みますと、この様な充実した日々を送ることができたのも恩師をはじめ諸先輩のご支援とご厚誼の御蔭と改めて御礼申し上げます。

今後は、家庭裁判所の家庭少年友の会の一員としまして「家庭に平和を、少年に希望を」の標語のもと、少年の福祉更正に微力を尽くしたいと思っております。

夕陽会の益々の発展と皆様方の御健勝を心からお祈り申し上げます。ありがとうございます。



過ぎたる「實」に戸惑いを  
感じながら感謝して

加藤弘  
(昭和三十二年卒)

この度のスポーツ功労者表彰は私にとって思いもしなかった賞であり嬉しさよりも戸惑いの方が勝るものでした。私とラグビーとの出会いは高校時代に始まります。

当時ラグビーと言えば危険で番からな奴がやるものと思っておりました。先輩の熱心な勧誘に負け主務としてお手伝いするという事での入部でした。しかしその春の大会で部員の一人が怪我をし大会出場が出来なくなるという事情からただ立っていればいいと説得されてフルバックでの出場が初陣となりました。そうは言われてもグラウンドに立った以上はそうもいけません。怖々味方の後ろで右往左往していた私でしたが何時の間にか男の端くれ魂がめらめらと燃え上がり夢中になり終了のホイッスルで我に返りました。大学ではラグビー界の重鎮であられた浦田正治教授の研究室に配属されラグビーのもつ奥深さを知るにつけます。そのめり込む事になりました。教師になったら一人でも多くの子供達に伝えて行きたいと思う様になりました。そんな昭和四十五年函館少年ラグビースクールが誕生しました。開校に当たってスクール運営には小学校の先生の協力が不可欠との事でラグビーの競技経験を持つ大学のT先輩他三名に声がかかり指導員としその運営に参画しあと数年で半世紀の時を刻みます。

ここ数年はグラウンドには出ず遠くから出会った延八千人を超える在校生がグラウンドを元気に走り回っている当時の姿を思い浮べ一人笑いをしています。またラグビーを通じて出会った先輩、同僚も素晴らしい見識と人格をお持ちの方々が多く私にとっては師でもありました。職業も異なり価値観も多様なそんな集団が結束して子供の健全育成に寄与するスクールに感謝の気持ちで一杯です。

末文になりますが温かくご支援下さいました夕陽会委員並びに夕陽会に心から感謝申し上げます。



自鳳章をいただいて

信田誠  
(昭和三十五年卒)

この度、平成二十三年度、函館市文化団体協議会・白鳳章を戴き、身に余る栄光と存じます。

思い起こせば、昭和三十九年から現在まで四十九年間に亘って、児童合唱二筋に邁進して来たように思います。

事の始めは、高校入学当時のことです。中学校から始めた柔道部に入り、一心に活動していたのですが、友人に誘われて音楽部を見学したときのことです。それまで全く経験したことのない混成四部合唱の厚いハーモニーに感動し、髪の毛は逆立ち、背筋に冷たいものが走り、所謂未知との遭遇でした。然も、一年生の時に全道・全国合唱コンクールにも出場し、すっかり合唱の虜になってしまいました。大学を卒業して、音楽専科として青柳小学校に赴任してすぐに合唱クラブを編成したのですが、NHK音楽コンクールでは、八年間万年二位、指導の未熟さを痛感するばかりでした。その後昭和小学校に転任し、心機一転。毎日二時間の練習を全部録音し、帰宅後、それを聞いては次回の練習計画を立てるという繰り返して、無我夢中でした。

ところが、何んとか澄んだハーモニーになってきた頃には卒業してしまおう。もう少し継続・発展させたいものだと思ひ、昭和五十一年に函館少年少女合唱団を創設しました。小・中・高生の幅広い年齢層の子どもたちが一堂に会し、大きい子は小さい子の面倒をよく見、小さい子は大きい子を見習って成長しています。子どもの可能性は無限であり、持てる力を充分に発揮してくれる子どもたちが大好きで、楽しくて、三十六年間続けることができました。

今回の受章は、素晴らしい子どもたちと、これまでご支援、ご協力戴いた方々の御蔭と、心より感謝申し上げます。

# 学校・職場紹介

## 函館市立北昭和小学校



本校は、昭和五十一年四月、昭和小学の児童数過密解消のため国道五号線沿線に位置する現在地に開校しました。開校時は四教室のみ完成であったため一・二年生用に当てられ、三年生以上は昭和小学校に教室を借りてのスタートでした。

以後八年間、増築・グラウンド造成・プール建設を経て現校舎に至っています。グラウンド造成作業をはじめ植樹等の環境整備にPTA・地域の方々の惜しみない労力や支援によるところが絶大であったことに、学校へ寄せる期待が伝わってきます。

近年の新道開通にとまない商工業・新興住宅地域として発展を遂げた地域の特性を生かし、校区にある大型スーパーマーケット・食品工場への見学学習や養老施設・保育園との交流学习等の教育活動を進めています。

児童に基礎・基本の力の定着を図るため、放課後に「計算寺子屋」を実施しています。計算力がアップし、学習の意欲向上につながっています。また、校内研究と日常実践を一体化し、「マイ辞典」の常携と活用や「ミニ作文」に取り組んでいます。

心のふれ合いを大切にするため、「全校あいさつ運動」を行っています。毎日、全校児童が輪番で元気なあいさつを呼びかけています。異学年交流による「ふれ合い遊び」や「なかよし給食」の継続した取り組みにより、互いに顔馴染みとなり和やかな雰囲気の中で活動するようになりました。

確かな力を身に付け、思いやりの心を持ち、自信をもって自分を表現できる子の育成を目指し、教職員一丸となって取り組んでいます。

### ■会員紹介

- 校長 市川 泰子(昭和五十五年卒)
- 教頭 前田 知彦(昭和六十年卒)
- 教諭 齊藤 えり子(昭和五十一年卒)
- 小泉 眞紀子(昭和五十四年卒)
- 和久井 貴子(昭和五十八年卒)
- 近藤 宏(昭和六十三年卒)
- 佐藤 豊(平成元年卒)
- 大谷 直之(平成三年卒)
- 山田 肇(平成五年卒)
- 田中 順子(平成六年卒)
- 小泉 有子(平成六年卒)
- 吉田 麻夕子(平成十一年卒)
- 弓庭 美帆(平成十二年卒)

## 函館市立日新中学校



本校は渡島半島東部、湯ノ川から国道二七八号線で約二〇km、海拔二七・九mの位置にあります。校歌に歌われているように、右手には汐首岬、左には武井の島が浮かびます。眼下には津軽海峡が広がり、向こう側には、青森県の建築物が目視できる、豊かな自然と歴史ある文化に恵まれた環境にあります。

昭和二十二年に「戸井町立日新中学校」として創立され、平成十六年の合併により、「函館市立日新中学校」となりました。この間に卒業生は三六〇〇名を超え、地域に沢山の同窓生が生活しています。こうした地域の力は、体育文化後援会などで部活動に力強い後押しをしてくれています。

最近では、戸井のマグロが有名になりましたが、他にも昆布やイカなど地区世帯のおよそ半数が沿岸漁業に関わっています。

学校からは、毎月の学校便りを全戸配布したり、防災無線を活用させていたでく中で少しでも子どもたちの姿を伝えるよう工夫しています。生徒数は少子化や過疎化の影響を受けて、減少傾向にあり、今年度三十五名。各学年一学級となっています。新年度は若干生徒数が増加する予定ですが、全校での体育や音楽、また学年縦割りの活動など少人数であることの良さを利用した活動を続けていきます。

本校は、「確かな学力をもち、郷土愛に満ちた生徒の育成」の重点教育目標の下、「日々新歩」を合い言葉に実践を行っています。ふるさと学習では、地域の人や施設に協力を仰ぎながら、漁業や農業に関わる学習を取り入れています。また、地域や町会の活動に積極的に参加し、ボランティア活動にも力を入れています。

一方では、戸井高校の募集停止が危惧される中で、確かな学力をしっかりと身に付けるために、個別指導に力を入れています。授業では習熟度別学習、家庭学習では個別の指導。日常的にも休み時間や放課後など、ちよつとした時間を活用して、職員室横のホールには学習する生徒と先生方の姿が見られます。

### ■会員紹介

- 校長 安達 幹彦(昭和五十五年卒)
- 教頭 笹木 昭夫(昭和五十七年卒)
- 再任 中川 俊男(昭和四十六年卒)
- 伊藤 忠司(昭和四十八年卒)
- 養教 島山 益枝(昭和五十二年卒)
- 教諭 長澤 一男(昭和六十一年卒)
- 宗廣 邦彦(平成五年卒)
- 三上和 宏(平成十二年卒)



皆様に感謝

秋元 順一  
(昭和四十九年卒)

このたび、函館市立学校教職員表彰受賞の栄を得ました。これも諸先輩や同僚・後輩はもとより保護者や子どもたち、地域の方々、教育関係者等々多くの皆様方のお力添えやご厚情によるものであり、心よりお礼と感謝を申し上げます。

復々式、定員三名(校長・教諭・教諭)の長万部町立蕨岱小学校が教員生活のスタートでした。ここで子どもも大人も一人一人を大切にすることを教えていただき、私の教職生活の主軸となりました。

その後、函館市に転任し、退職までの八校、三十二年間お世話になりました。その間、勤務校をはじめ、算数研究会、道徳研究会、教育経営研究会等を通して多くの方々との出会いがあり、教師として大いに鍛え育てていただきました。

夕陽会との関わりも忘れることが出来ません。教頭時代には函館市支部幹事長、また、校長時には本部長として多くの同窓会の先輩・後輩の皆様からご支援、ご協力をいただき、無事業を推進することができましたこと、この場を借りまして深く感謝申し上げます。

その際感じたことですが、「函館の地から距離が遠く離れている方こそ、函館・夕陽会への想いが深いということ。今、私は学校教育からの距離がだんだんと遠ざかっておりますが、その分、学校教育への想いが募っていくようにも思っています。

今後は、夕陽会同窓生としての自覚を胸に、お世話になった函館市の教育の充実のため微力ではありますが力を尽くしていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

夕陽会のみならずの発展を祈念し、お礼の言葉いたします。



多くの出会いに感謝

玉手 道男  
(平成四十八年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰の栄を賜り、さらに夕陽会函館市支部より受賞祝賀会へのお招きをいただき、誠にありがとうございます。

渡島で十七年、函館市で二十一年の合わせて三十八年間の教職生活を全うできたのは、多くの子どもたちとの出会いや多くの皆さまのお力添えがあつてこそと感謝の気持ちでいっぱいです。

正直なところ、渡島時代は夕陽会について特別な思いや意識はありませんでしたが、市内勤務となつて夕陽八十周年記念事業の一部員として仕事をさせていただく中で、当時の安島会長を筆頭とする諸先輩の創造力・人間力・結束力等の見事さに感激し、その意識は大きく変わりました。「こんなに素晴らしい教師やOBが身近にいる」と思うだけで力が湧いてくるような気がしました。そして十年後、文化部長として第八回夕陽書道展や第九回夕陽音楽会、そして九十周年事業にもかかわらずながら学校現場とはひと味違う様々な体験ができたことが、今でもかけがいのない財産となつて残っています。

現在は、函館市適応指導教室で児童・生徒の指導や、市内小中学校の訪問指導を担当しています。「他人とどうかかわって生きていくか」を、様々な活動を通して学習させるといふ学校現場と同じ課題に向かつて、これまでの全ての経験を活かして頑張りたいと考えています。

昨年十一月四日の表彰式では、山本教育長のご挨拶に続き橋田教育委員長が受賞者ひとり一人に表彰状を渡されました。教諭・事務職・校長と各々の立場で長年函館市の教育に貢献したということで、身に余るご丁寧な対応を頂き、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

(開始時刻を間違え遅参した私に、特別に中央で表彰状を拍手付きでお渡し頂き嬉し恥ずかしでした！)



感謝を込めて

柏崎 恭子  
(昭和四十八年卒)

この度の函館市立学校教職員表彰受賞に際し、様々な形でお世話をいただきました皆様のご芳情に、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。ささやかでしたが、私にとってかけがえのない三十八年の教員生活でした。

地図にも載っていない初任地(奔幌戸)へ着任したの頃、同窓の大先輩が「函館の女」を熱唱し温かく迎えてくださいました。授業準備が未消化のまま教室に向かうことが多く、生徒に申し訳ない、もつと授業が上手になりたいと、教材研究に必死だったことを覚えております。四年後、市内の中学校へ転勤し、「何でもできる人」と聞いております」とおっしゃる校長先生の不安そうな眼差しに、冷や汗がでてきました。この時、初めて集団とよべる学級の担任となり、生徒指導に非力な自分の姿を生徒が教えてくれました。悩み多い日々でしたが、今年の轍は踏むまいと、密かに決意を固めたものです。

教頭になつて、学校全体そして、保護者や地域の皆様とともに様々な活動を創り上げる喜びを体験し、教員という仕事の奥の深さと広さを学びました。試行錯誤の繰り返し、しかも手際の悪い私を、辛抱強く見守つてくださった上司に深く感謝いたしております。

その後、諸先輩のお力添えにより、校長職を体験する機会を与えていただきました。至らないことは承知しておりますが、特に思い残すことはありません。

「人は人生のそれぞれの時期に初心者に戻る」と言われます。人はその折々に課せられた使命と相対し、真に価値あるものを自らに取り込むことにより、年齢にかかわらず進化できると思ひます。人生の新たなステップに立つ今、この榮譽に恥じぬよう精進する所存です。

最後に、当会のご発展、会員の皆々様のご健康とご活躍を心から祈念いたします。ありがとうございます。



支えられて

安保勝順

(昭和四十四年卒)

この度、はからずも函館市文化団体協議会より平成二十三年度「白鳳章」拝受の栄を浴しました。身に余る光栄と深く感謝しております。また、早速、夕陽会本部、函館支部をはじめ、諸先輩、会員の皆様からご懇篤なご祝意を頂戴いたしました。心から厚くお礼を申し上げます。

昭和四十四年に卒業して日高管内に赴任しました。書道研究室を卒業したのですから、何とか書活動を続けたいとの思いから、展覧会の度に作品を函館の諸先生、諸先輩に送り指導を仰ぎました。温かい励ましを期待しているのですが、あに凶らんや。「ダメ！」「書き直し！」返ってくるのはいつも先輩たちの厳しい指導でした。函館に勤務するまで十三年間の生活でした。しかし、今日まで書活動を休むことなく、続けてこられたのは、長年にわたって支えていただいた夕陽会、研究室諸先輩、仲間のご指導ご支援の賜と感謝しております。

退職する一年前に北海道書写書道教育研究大会を函館で開催させていただきました。五十八回を迎えた大会でしたが函館での開催は初めてでした。小・中・高の一貫した研究会であり、組織づくりや準備には約三年間を要しましたが全道、道南より二百六十名の参加があり、函館の書写書道教育に沢山の財産(課題も)を残すことができたことは何よりでした。夕陽からは物的、人的面で多大な協力をいただくことができました。

以上のように、この度の受章は職責の一つとして、会員の一人として自分に与えられた仕事を進めてきただけなので、「白鳳章」受章といっても複雑な思いがあります。ただ言えることは、夕陽会、諸先輩、仲間「支えられて」の受章であることは間違いありません。お礼と感謝を申し上げます。有り難うございました。



青麒麟章をいただいて

磯波理恵

(平成十四年卒)

この度、函館市文化団体協議会より青麒麟章をいただき、身に余る光栄と心より感謝申し上げます。

私が北海道教育大学函館校に入学したのは、平成十年のことです。教育学部書道科に四年間在籍しました。卒業後は羽幌町立天売中学校、函館市立恵山中学校と赴任し、現在は桐花中学校に勤務しています。教員として過ごすかたわら、高校からの恩師である鈴木大有先生に師事し、書活動を続けています。

「書は人なり」と言われますが、生徒や先生方、諸先輩方との出会いで形成されたものが、書に反映されていることを感じます。多くの人から沢山学ばせていただけることは、本当に幸せで「感謝」の一言に尽きます。また、師や諸先輩、仲間や後輩と書道に励むことのできる「最高の環境」があることも、大きな力の源です。

私にとつての転機は、二十九歳になったとき、三十歳からの「挑戦」という思いで決意した日展出品です。毎年、夏には勉強会が開催され、全国から書家が集まり作品を書きます。自分の未熟さを知るとともに、書に臨む姿勢や作品にこめる気迫など、刺激を受けて帰ってきます。教職と書道は、私にとって成長の機会を与えてくれる場所です。教職で学んだことが書道に活かされ、書道で学んだことが教職で活かされます。両輪がなければ、今の自分はないと思っています。

現在は、書写教育研究会や青少年芸術奨励事業の実行委員、小中学生の書初め大会の運営等に携わる機会を頂いています。少しでも、函館市の子どもたちの書文化振興・育成のお役に立てればと思っております。

今後ともより深く、教職、書道の研さんを積んでいく所存ですのでご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。



若返りの妙薬に

高市一男

(昭和二十四年卒)

この度、この老いの身に函館音楽協会賞をいただくとは全く果報者、長生きした御褒美か嬉しいかぎりです。

昭和二十四年三月に北海道第二師範学校を卒業し、函館市立松川中学校で音楽指導に当たりました。

驚いたことに、当時の教科書には、欧米の翻訳ものの曲ばかり、日本の曲は三年間で、滝廉太郎の「花」、「荒城の月」、大中寅二の「椰子の実」、成田為三の「浜辺の歌」くらいのものでした。そのうち、民謡が加わり、鑑賞教材として雅楽、三曲(箏・三弦・尺八)が導入されるようになり、その上、文部省は音楽教師として、日本の伝統楽器を奏でることができるようになりました。

さて、どんな楽器に挑戦しようかなと思いい、猫でも引っ掻くと鳴ると言われた箏に目をつけ、箏の師匠の門を潜つたのが昭和二十九年でした。

その後、函館三曲協会に所属し、平成十七年に会長になり、今では、自ら学校に向く事なく、会員の皆様が学校に向き、箏・三弦・尺八の手ほどきをしてきています。

さて、平成元年三月に退職しまして、そのころ各地に定期的に公演を行っている、市民オペラ、県民オペラ等の団体が三十以上もあり、そうした中、函館でも市民によるオペラに取り組もうとしたのです。

平成二年に函館市民オペラを誕生させ、それ以来オペラから抜け出せず、今年、第二十回記念公演を予定しております。

去る一月十一日の新聞に、醜い写真と協会賞受賞の記事が載ったとたん、お祝いの電話やFAXが鳴りっぱなしで、これを起爆剤に、若返りの妙薬として頑張らねばと意気込んでおります。